Japanese association of educational psychology

広く関心を向けるようになったと言えよう。これはまた、情動研究が、例えば仲間関係の発達や自己の発達などを含む、人間関係の発達を明らかにする上で、多くの可能性を秘めていることを意味する。

情動研究は、様々な分野からのアプローチが可能な領域である。筆者は、社会情緒的発達の研究者という立場から、新たな情動研究の方向性について提言を行うが、他の分野の研究者の方からも、多くのご意見を頂戴できれば幸いである。

幼児期におけるパーソナリティの発達

松井淳子

自己や他者、その心的側面についての理解がどのように発達するのかという問題は、古くから強い関心を集めてきた。その発達的な変化を大きな年齢幅で論じる場合、幼児期は発達のベースラインとして、すなわち相対的に未熟な段階として位置づけられる傾向があった。しかし近年、幼児も心理的側面を含めて多面的に自己や他者を捉えうるという主張がある（Damon & Hart,1988；Eder,1990；保崎,1995）。心の理論の発達的研究からも示唆されるように（例えば Yuill & Peason,1998；Heyman & Gelman,1999）、ことに幼児期後期の対人認知の発達には目を見張るものがあるといえよう。

本論では、乳幼児期におけるパーソナリティの発達に関する Eder(1997)の理論を取り上げる。Eder(1990)の研究によれば３歳の子どもでもその年齢なりに組織化された自己概念を持つという。幼児期後期においても各年齢ごとに自己を構成する概念が異なっており、こうした年齢に応じた構成概念には個人差があるとされている（Eder,1990；Measelle et al.,1998）。従来こうした自己概念は、表象能力の獲得とともに自己を客体視することが可能になって形成されるものと考えられてきたが、自己概念は表象能力が獲得された時点で突如として現れるものではなく、それ以前の時期から見られる情動をベースにした自己感との関連で考える必要がある。特に自己概念の個人差を問題にする場合は、それまでの情動経験に基づく自己（自己感）の個人差や、そこに関わる要因（生得的社会的双方の）を考慮しなければならないだろう。

Eder の理論は、幼児期後期の自己概念が、それ以前からの情動経験の個人差と関わっている可能性を指摘した点で注目に値する。しかし、具体的にどのような形で関連しているか、また年齢や個人によって異なる概念化のしかたが実際の社会的行動をどのように方向づけるのかといった側面については、検討の余地があると思われる。こうした見かたが子どもの社会情緒発達や適応上の問題を考えるうえで持つ意味や課題について、フロアとともに考えていきたい。

幼児期の自己と語り

小松孝至

近年、幼児と親の間で共同的になされる「経験についての語り（narrative)」から、子どもの自己の構成あるいはそれに関連した社会化を探る試みが盛んになされている。しかし、一口に語りを取り上げるといっても、焦点が当てられるテーマは様々である。例えば、語りを通した自伝的記憶の構成、自己や他者の情動の語られ方などが代表的なテーマとして挙げられる。本発表では、これらの研究のうち、社会文化的アプローチの立場から「語りと自己」に着目している Miller による研究を取り上げて議論する。

Miller が一貫して検討しているのは、子どもの日常生活場面における語りである。そして、幼児と周囲の家族の日常的なコミュニケーションの中に、文化・階層に特徴的な自己観が埋め込まれていることが示されている(Miller et al.,1997 など)。

個々の子どもの中に、静的な実体として「自己」が存在するのではなく、マクロからミクロの様々なレベルにわたる背景(文化圏、階層、共同体、共に語る他者)を持つコミュニケーションの中で子どもの自己が構築されることを示す Miller の研究は、幼児期の自己のありかたを的確に捉えており、大きな示唆を持つと考えられる。

ただ、これらの研究で語りが捉えられる時、比較文化研究、あるいは社会階層間の比較で見出された差異に基づく説明が重視されていることも事実である。もちろん文化・階層間の差異への着目を否定するものではないが、語りの特徴の全てがマクロレベルの「文化」によって説明されるわけではない。文化・階層比較研究の枠組みを踏まえつつ、個々の子どもの語りに関わる様々な要因を取り上げてゆくことは今後の課題の一つであろう。また、語りへの視点を幼児教育・保育といった営みと関連付けることも有用であるかもしれない。発表者自身もこれらの課題に対する模索の途上にあるが、当日は Miller の研究を踏まえた今後の研究についてその可能性を議論したい。

NII-Electronic Library Service